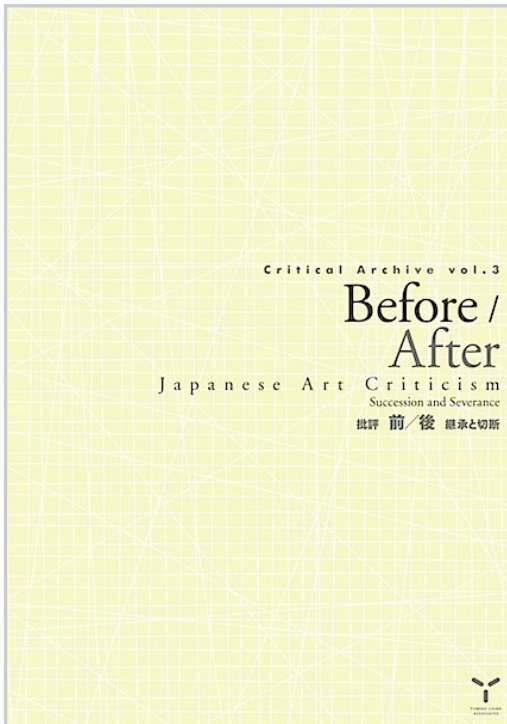




書籍刊行&トークイベント開催のご案内



Critical Archive vol.3

批評 前／後——継承と切断

この度、ユミコチバアソシエイツでは、「美術批評の批評」をテーマに、日本の戦前から戦後にかけての美術批評を再検証することを目的とした研究冊子『Critical Archive vol.3 批評 前／後——継承と切断』を刊行致します。

2014年、第二次大戦を通して新たな絵画的諸問題に直面した画家たちの実践を取り上げながら、その思考が戦後の活動にいかにも表出されたかを論じた書籍『Critical Archive vol.2 前夜／前線 Critical Perspectives on World War II and Painting』を刊行致しました。シリーズ続編となる本書は、複数の時代／人材を繋ぐ結節点である1950年代前後の美術批評を軸として、戦前から戦後にかけて展開されてきた近代美術批評を再考し、現在の美術批評の在り方について探求します。

本企画のプレイベントとして2015年に開催されたシンポジウムは、盛会のうちに終了致しました。今回、それに続き、本書の監修と執筆を務める沢山遼氏、執筆者の土屋誠一氏と成相肇氏の三者にて、刊行記念トークイベントを開催致します。この機会に是非ともご参加ください。

クリティカル・アーカイヴ vol.3 は、日本の近代美術批評を取り上げる。

前回、私たちは、画家の戦争経験を反映した絵画群を広義の「戦争画」と捉え、太平洋戦争以前に準備された思考や方法、そして戦争という限界経験が、戦後に入り、とりわけ1950年代の時空間に時差をもって繰り越され、どのような帰結をもたらしたかを検証した。

今回、美術批評を主題として論じる私たちの言説は、それとは無関係に見えるかもしれないが、実は前回の企画と連動している。「批評 前／後——継承と切断」は、世代の異なる批評家たちの「前後」関係を検証するものであると同時に、日本の美術批評史における戦争の「前」と「後」の関係を考察するものであるからだ。それは、戦後の美術批評を準備した主要な問題群は、すでに戦前に準備されていたという認識に基づいている。その意味で今回の企画は、前回と同様に、歴史記述が遭遇する時制的なズレやねじれを「戦争」という切断面を通して思考するものであり、それは、戦後美術や現代美術が依拠してきた「現在」という時制の透明性や連続性を批判するものとして考えられている。結果的に私たちの方法は、太平洋戦争開戦前後の言説が置かれた緊張感や政治性を、戦後環境から捉え返すアナクロニズムを実践することにもつながるはずである。

美術批評において、戦中世代と戦後世代とが結節したのは1950年代であり、彼らは主に『美術批評』という雑誌媒体で合流した。そこでは、批評相互の内在的な緊張と批評とその外部の政治的緊張こそが、テキストに重層性をもたらしていた。今回の企画もまた、戦争という切断面を通して、50年代という特異な地層への潜行を試みるものである。そのため今回の「批評 前／後——継承と切断」は、50年代の「戦争画」を取り上げた前回の「前夜／前線」の批評篇と考えていただければ幸いである。

論者を代表して——沢山 遼 （本書 序文より）



■ 研究冊子

Critical Archive vol.3 批評 前／後——継承と切断

内容：

『思考の再演— 芸術批評の状況』 沢山遼（美術批評）

『中井正一と「委員会」』 土屋誠一（美術批評家、沖縄県立芸術大学准教授）

『現実（インチキ）大合戦— 花田清輝のシュル・ドキュメンタリズム』 成相肇（東京ステーションギャラリー学芸員）

『傍観者の論理— 森鷗外、花田清輝、東野芳明』 野田吉郎（表象文化論、美術批評）

監修：沢山遼 / 執筆：沢山遼、土屋誠一、成相肇、野田吉郎 / 編集：櫻井拓 / デザイン：小沼宏之

発行：ユミコチバアソシエイツ / 仕様：A5 サイズ、本文 104 頁、和英表記

発売日：2017 年 3 月 1 日 / 販売価格：3,000 円（税別） / ISBN978-4-908338-07-6 C0070 3000E

※初版限定 500 部

※ご購入は、全国の書店、ユミコチバアソシエイツ、もしくは YCA オンラインストアにて

<http://ycassociates.thebase.in/>

※『Critical Archive vol.2 前夜／前線 Critical Perspectives on World War II and Painting』も好評発売中です。

<http://ycassociates.thebase.in/items/632138>

■ 刊行記念トークイベント

沢山遼×土屋誠一×成相肇

2017 年 3 月 30 日（木）19:00-21:00、事前予約制、参加費 500 円

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku（東京）

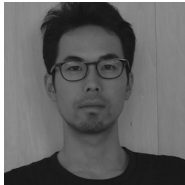
* 当日に限り、研究冊子を特別価格 2,500 円（税別）で販売いたします。

【お申し込み方法】

件名「批評 前／後トークイベント」、お名前、ご住所、電話番号をご明記のうえ、event@ycassociates.co.jp まで、メールにてお申し込みください。

* 定員（25 名）に達しましたら、受付を終了いたします。* ギャラリーからの返信メールが届かない場合は、営業時間内にお問合せください。

■ 登壇者プロフィール

**沢山 遼（さわやま りょう）**

1982 年生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科修了。美術批評。

主な論考に“Paintings inner structure: container and contents in the works of Motonaga Sadamasa,” (*Between Action and the Unknown: The Art of Kazuo Shiraga and Sadamasa Motonaga*, Yale University Press, 2015)、「ニューマンのパラドクス」(『ニューヨーク 錯乱する都市の 夢と現実(西洋近代の都市と芸術 7)』竹林舎、2016 年)など。**土屋 誠一（つちや せいいち）**

1975 年生まれ。多摩美術大学大学院美術研究科修了。美術批評家。沖縄県立芸術大学准教授。共著に『拡張する戦後美術』(2015 年)、『Life is like a Melody 麻枝准トリビュート』(2015 年)、『現代アートの本当の見方』(2014 年)、『現代アートの巨匠』(2013 年)など。展覧会企画に「disPLACEMENT 場所の置換」シリーズ(2005 年～)、「反戦」展(2014 年)、「真喜志勉展」(2016 年)など。

**成相 肇（なりあい はじめ）**

1979 年生まれ。一橋大学言語社会研究科修了。2005 年より府中市美術館学芸員、2012 年から現職。主な企画展に「石子順造の世界—美術発・マンガ経由・キッチン行」(2011-12 年、府中市美術館)、「ディスカバー、ディスカバー・ジャパン「遠く」へ行きたい」(2014 年、東京ステーションギャラリー)、「パロディ、二重の声—日本の 1970 年代前後左右」(2017 年、同)など。主な論考に「俗悪の栄え—漫画と美術の微妙な関係」『実験場 1950s』(東京国立近代美術館、2012 年)など。

【本企画に関するお問合せ】

ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。尚、御質問および画像データの御依頼は下記までご連絡下さい。

ユミコチバアソシエイツ 担当：千葉、鈴木

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#316 Tel: 03-6276-6731 e-mail: info@ycassociates.co.jpwebsite: www.ycassociates.co.jp 営業時間：12:00-19:00 定休日：日・月・祝日